

御 館 中



学校だより

郡山市立御館中学校

平成 24 年 10 月 26 日発行 特別号

文責 校長 塚本 英樹

平成 24 年度 学校評価 (中間) について

今年度の本校の「学校経営・運営ビジョン」の重点目標の達成具合について、生徒及び保護者に実施したアンケートの結果を参考にしながら教職員で自己評価(中間評価)を行いました。保護者の皆様にはお忙しい中アンケートにご協力いただきありがとうございました。生徒及び保護者のアンケート結果は、3、4ページをご覧ください。

その後、去る10月16日に、学校評議員、小学校校長、PTA三役による「学校評価委員会」を開催し、「自己評価の結果と今後に向けて」に対するご意見をいただきました。その内容は以下のとおりです。

この結果やご意見について、すぐにも改善できるものと来年度の計画等に取り入れていくものがありますので、それを十分に検討し学校経営・運営に生かしていきたいと考えます。また、2月には今年度のまとめとなる2回目の学校評価を行う予定ですので、保護者の皆様には再度アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

<自己評価の結果と今後に向けて>

◎教育目標「夢」について

自己評価の結果	考察と今後に向けて
○「『夢』を持ち、学習する目的をはっきり言うことができるようになった」に対して、生徒と保護者の評価が分かれた。	・進みたい方向性を自分なりに持ち、目的意識を持って取り組んでいる生徒が多い。生徒の意欲を大事にする意味からも、学校、家庭のそれぞれが、生徒の考えをよく理解し、尊重しながら進路指導が進められるようにしたい。 ・1、2年生に関しては、高校説明会への参加が、進路についての意識を高めるよい機会となった。今後は、職場体験学習の機会なども大切にしながら、より充実した指導が行われるようにしたい。

☆「確かな学力の育成」について

自己評価の結果	考察と今後に向けて
○「授業を通して、わかる・できる喜びを感じ、力がついている」、「各教科に積極的に取り組み、学力向上・技能向上に努力している」に対する生徒自身の評価が高かった。また、「生活記録ノートを活用し、忘れ物をなくすとともに文章表現を伸ばすこと」に対する評価が保護者・生徒共に高かった。	・昨年度に引き続き、今年度も、「本時のめあて」「本時のまとめ」を明らかにした板書構造を大切に授業に取り組んでいる。この時間で何を学び、何がわかり、何ができるようになればよいのかを明らかにした授業を今後も続けていきたい。また、質問学習の機会を生かし、個に応じたきめ細かい指導を行い、生徒の力を伸ばしていきたい。さらに、必要に応じて、学習の基本となる学習用具をきちんと揃えることや家庭学習の習慣化が身に付き継続するよう指導していきたい。
●「子どもにあった学習方法を個別に指導すること」に対する評価が低かった。	・家庭学習で調べた内容を授業の中で活用したり、家庭学習で練習してきたことを授業の中でテストしたりするなど、課題テーマ計画表を授業と関連させながら指導することを心がけ、生徒が自ら進んで取り組めるようにしてきたが、評価の低さは生徒・保護者の悩みや要望の表れととらえ、今まで以上に、生徒の実態把握に努め、よりきめ細かい指導ができるようにしていきたい。と同時に、生徒自身が、学習の仕方の悩みを相談したり、分からない問題を質問したりできるような積極性も養っていくようにしたい。

☆「表現力の育成」について

自己評価の結果	考察と今後に向けて
○「自分の考えを持ち、思っていることを人に伝えることができるようになってきている」について、生徒・保護者とも評価は高くなかった。	・授業をはじめ生活記録ノートの活用により文章表現力を伸ばす取り組みを充実させるとともに、今後も少人数のよさを生かし、授業をはじめ、総合的な学習の時間の歌舞伎学習、学校行事、集会など様々な機会に発表の場や機会を設けて表現力の育成に努めていきたい。また、「学校内外で明るくさわやかなあいさつをすることができる」について、校外でも、進んであいさつができるようにすることで積極性を養い、表現力の育成につなげていきたい。

☆「自律心の育成と健やかな心身の鍛錬」について

自己評価の結果	考察と今後に向けて
○「部活動に積極的に参加し、技術の向上を目指すとともに、自己管理にも気を配るよう指導する」の評価が高かった。	・部員が増え、どの部も活気が出てきている中、部員が一丸となって取り組む指導を心がけることで、よい雰囲気の中一人一人が支え合いながらチームとして力を発揮させることができた。
●「心身ともに健康で、何事にも積極的に挑戦し、試練に耐えることができるようになってきている」は評価がやや低かった。また、「登下校や集合などの時間、提出物の期限を守り、はじめある生活ができる」は、学年ごとにばらつきはあるが、全体として生徒自身の評価は高くなかった。	・よさを認め、自信を持たせ、何事にもチャレンジする意欲を育てていくとともに、運動に限らず宿題や課題等やるべきことはつらくとも最後までやり抜くこと、自分の限界をつくらずさらに上のステージを目指して努力する強い心を育てていきたい。

☆「奉仕の精神の涵養」について

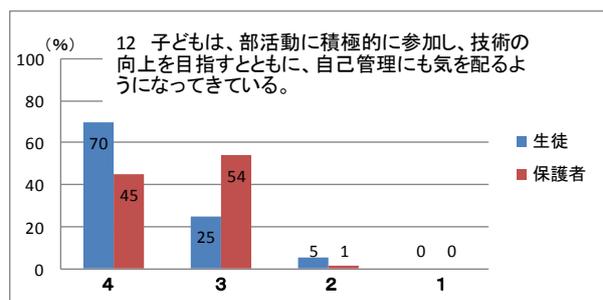
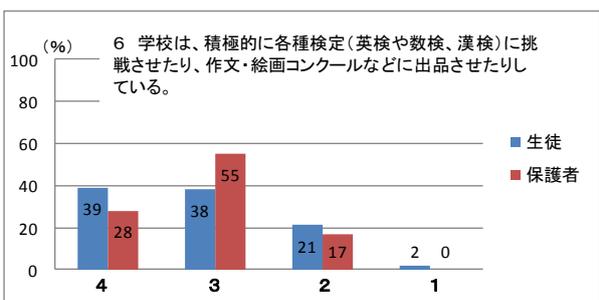
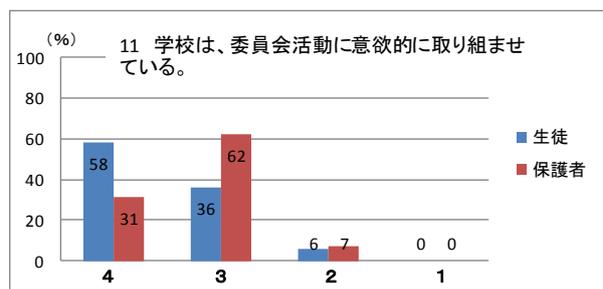
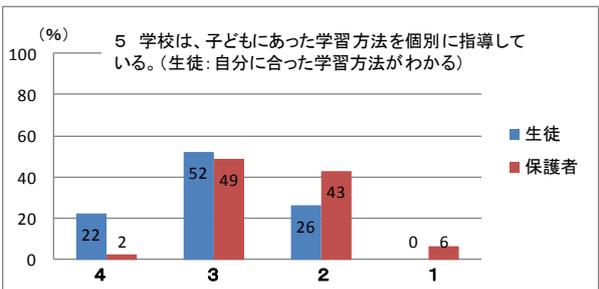
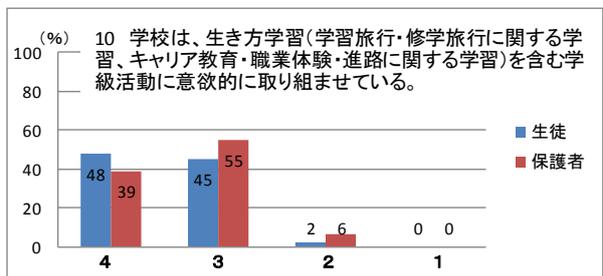
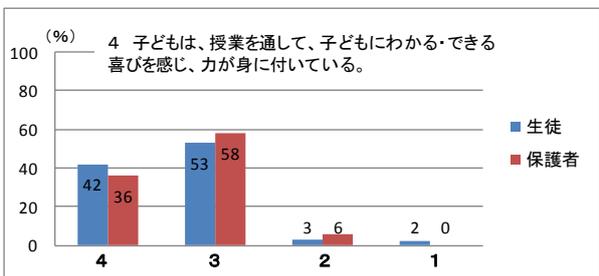
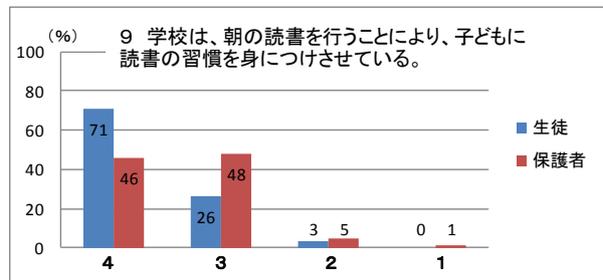
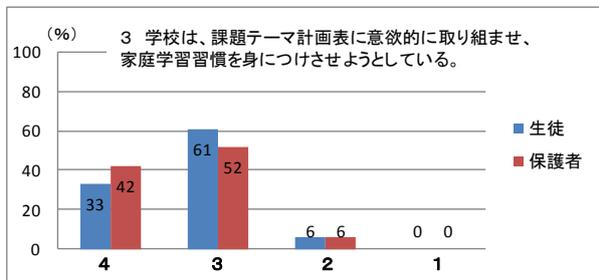
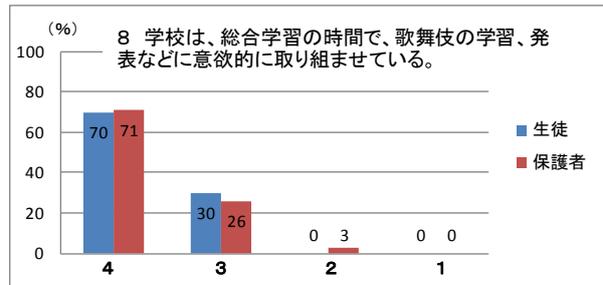
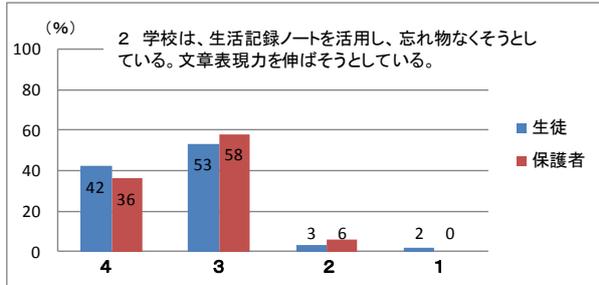
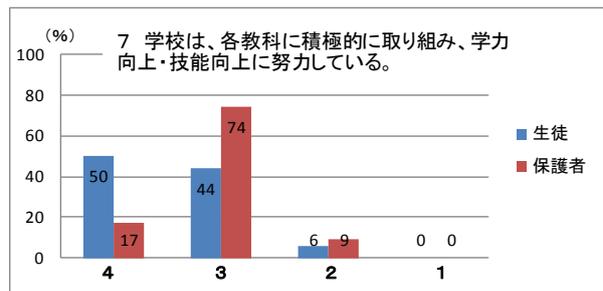
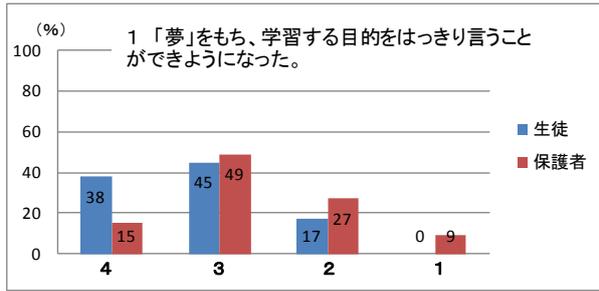
自己評価の結果	考察と今後に向けて
○「奉仕の心を持ち互いに協力し、助け合いながら進んで社会に奉仕しようとする姿になってきている」について、学年によってばらつきはあるものの保護者の評価は高かった。	・生徒は、互いのよさを認め合いながら協力して諸活動に取り組んでいる。また、「日直や奉仕委員会などやるべき仕事を忘れず行っている」の生徒の自己評価が高いことからわかるように、生徒は自分の仕事に責任を持ってしっかりと行っている。さらに、生徒会などでは、自分たちで考え、行動する姿が見られるようになってきている。学年の活動はもとより、生徒会活動、部活動等あらゆる機会を通して、友達と協力して物事を成し遂げることのすばらしさ(達成感・充実感・一体感等)を味わわせることで、進んで社会に奉仕できる態度を養っていきたい。

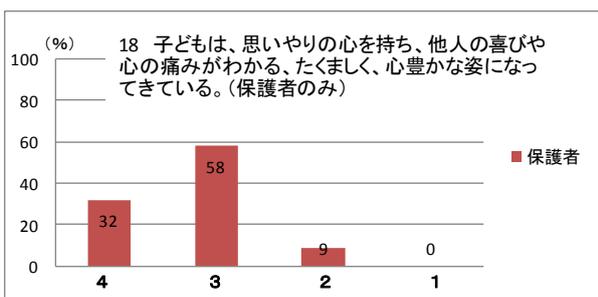
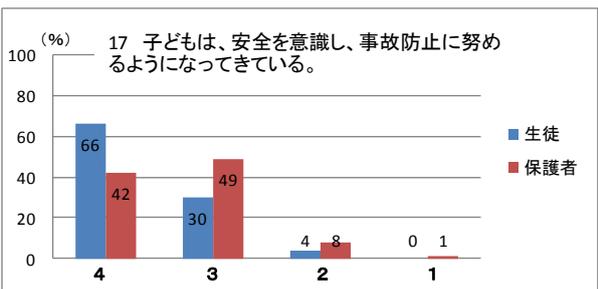
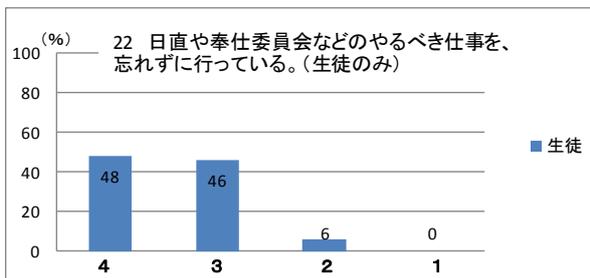
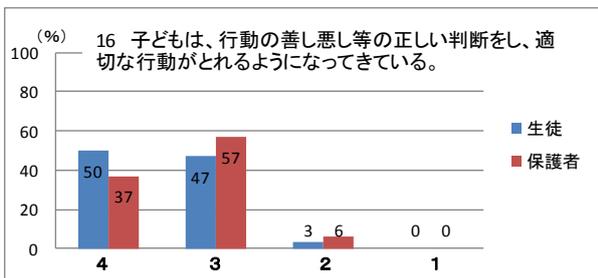
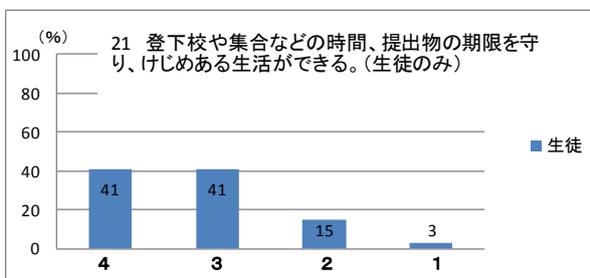
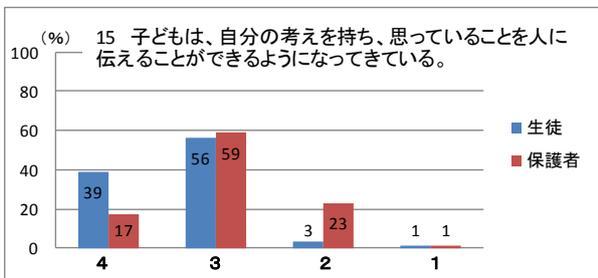
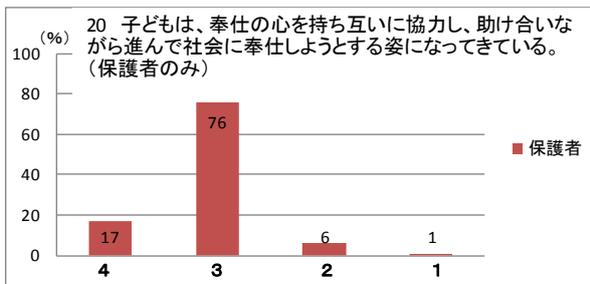
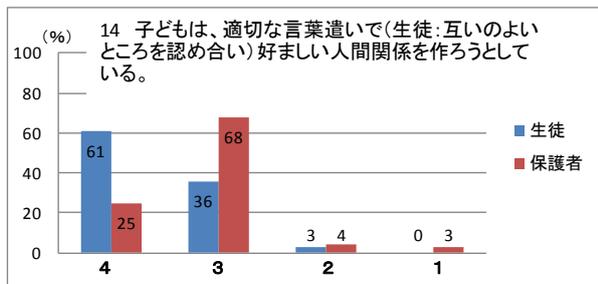
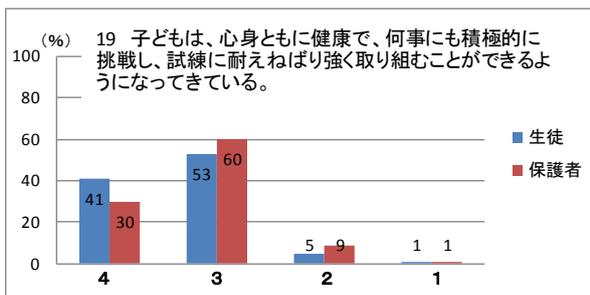
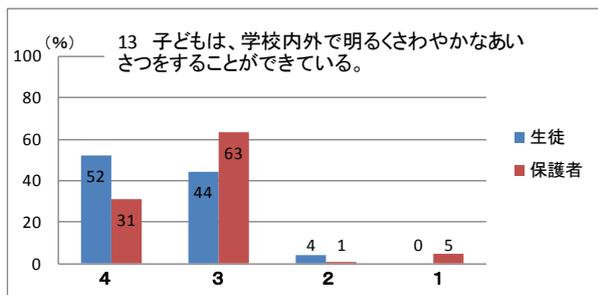
<学校評価委員の主な意見>

- 生徒の評価と保護者の評価に差がある(生徒が高く、保護者が低い)。年頃ということもあるが、親子の会話、コミュニケーションをもっと増やすことが必要ではないか。
- 個に応じた学習方法の指導について、「質問学習」の設定は効果的であると思うが、中には、わからないところがわからないので質問できない生徒もいるのではないか。
- あいさつに関しては、こちらからあいさつをすると必ず返してくれる。学校の外でも習慣化を図るには、まずは家庭の中でできるように親(大人)が意識してやっていくことが大切である。
- 素直な心を持ち、男女が学年の枠を超えて協力して活動できるというよさはあるが、将来的にもっと大きな集団の中やはじめての人たちの中でも積極的にできる力を身に付けてほしい。
- 学校で実践していることをもっといろいろな場で説明、公表していくことが大切ではないか。

※ 上記のとおり、学校評価委員の皆様から「学習方法に関すること」や「あいさつに関すること」「積極性に関すること」などについてのご意見をいただきましたが、今後十分に生かしていきたいと思えます。ご出席いただきました学校評価委員の皆様、ありがとうございました。

平成24年度 学校評価アンケート結果(前期)





- 4 「とてもそう思う」
- 3 「まあそう思う」
- 2 「あまりそう思わない」
- 1 「まったくそう思わない」